

# 宇宙政策に対する期待と 利用産業の役割

平成25年4月18日

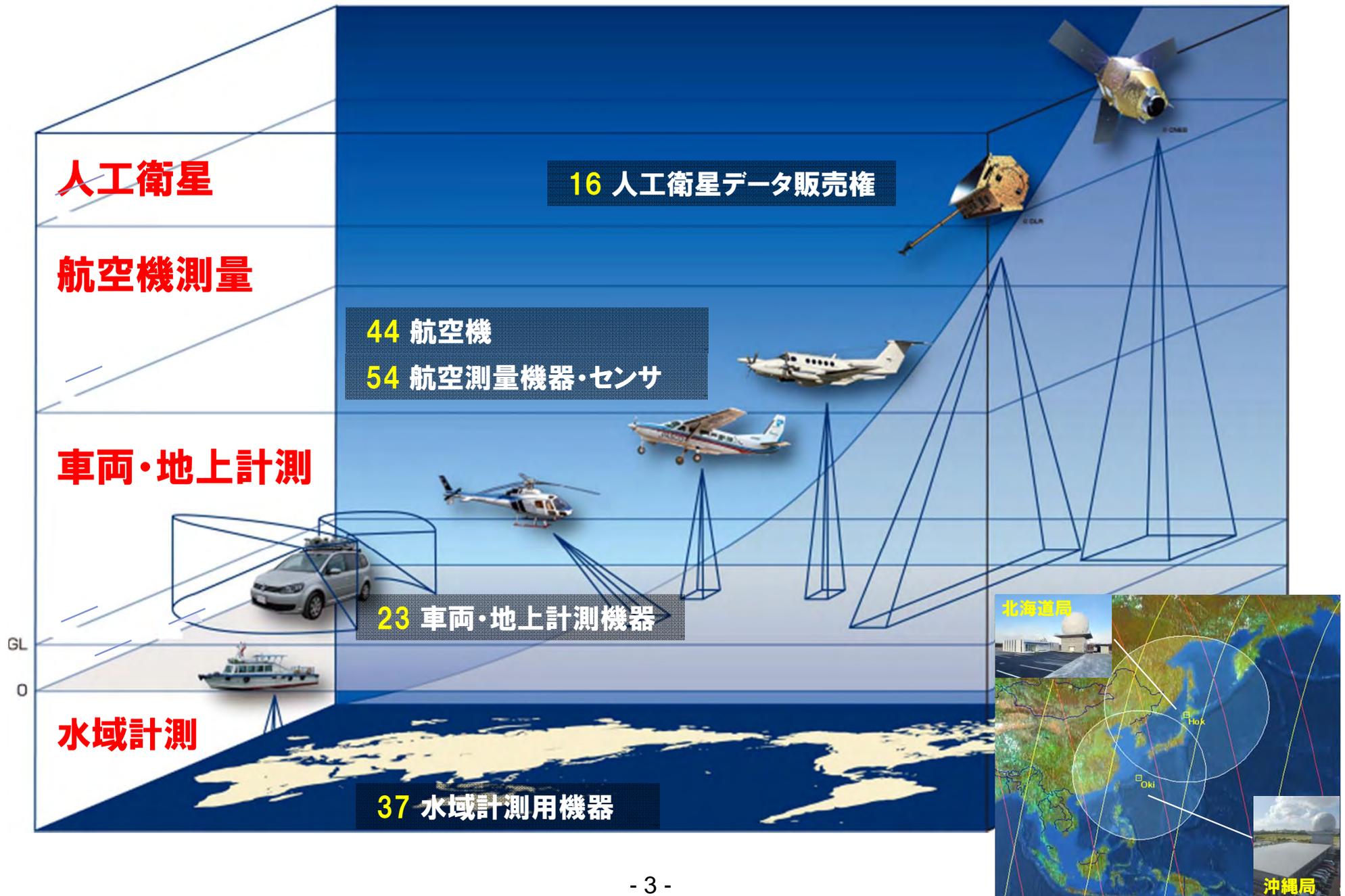
株式会社パスコ  
代表取締役社長  
目崎 祐史

# ■ パスコの事業

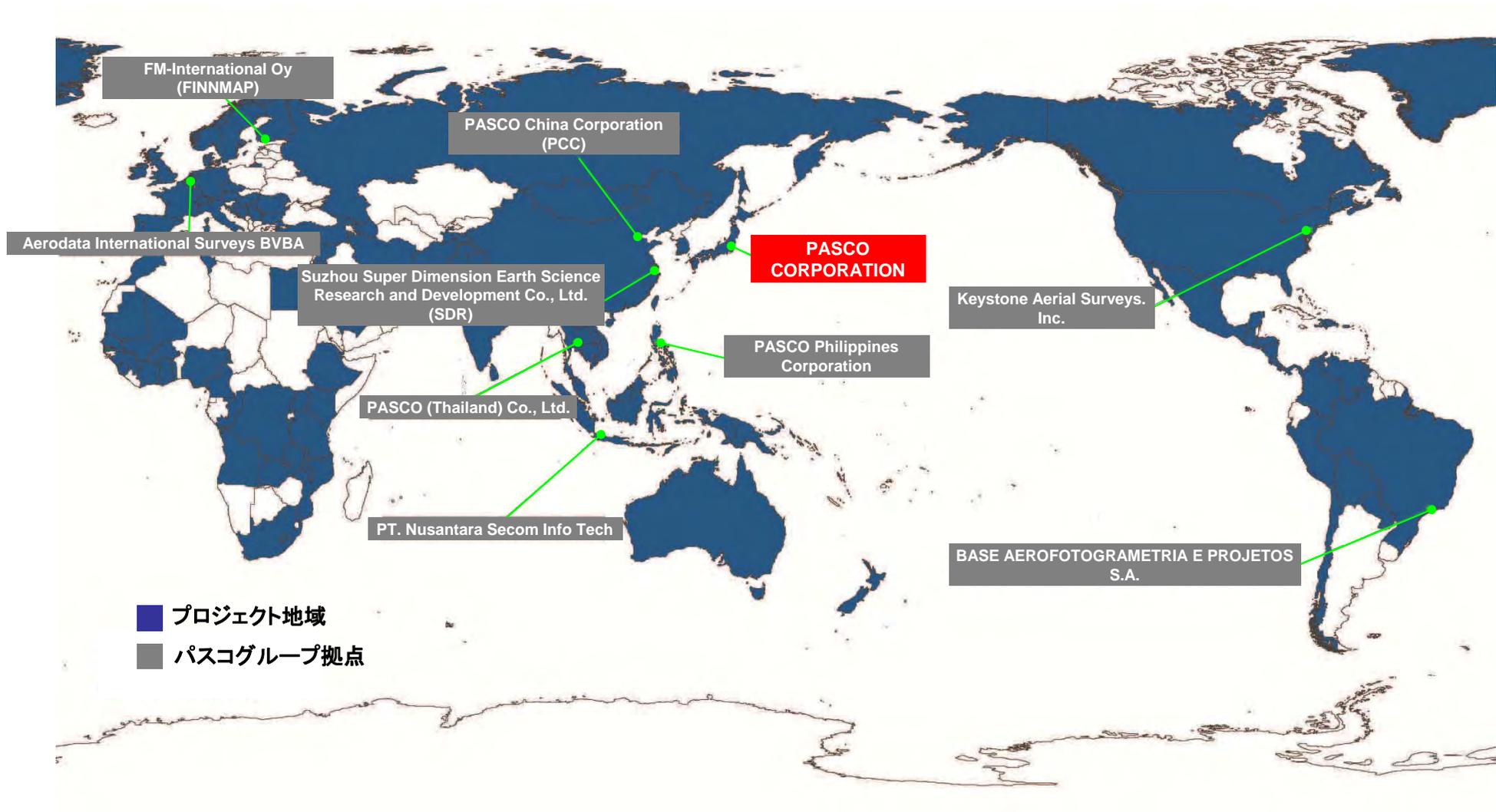
- 1953年の創業以来、空間データの収集、処理・解析、提供までの一貫したサービスを提供
- ユーザ要求に即したサービスの提供



# ■ センシング能力

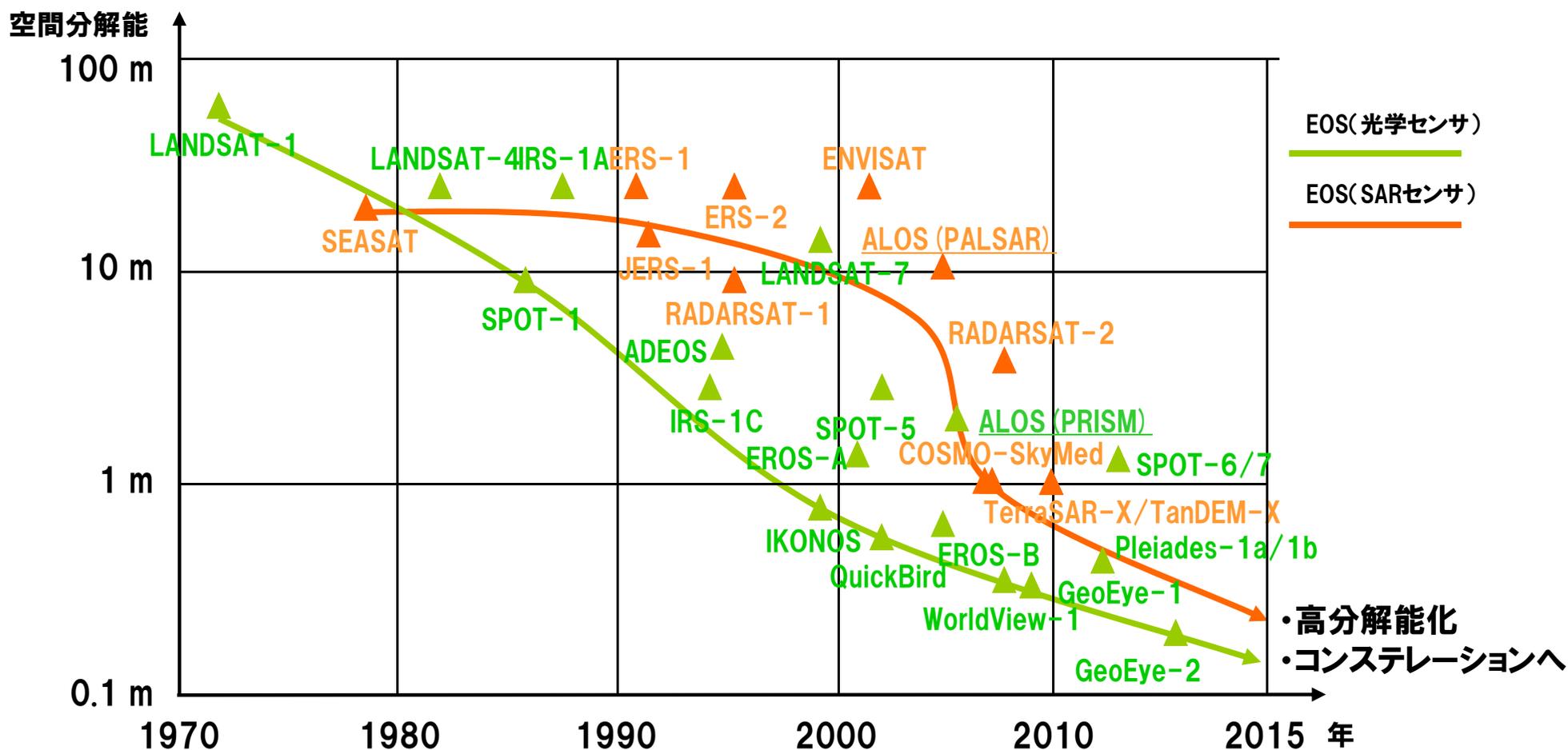


# ■ プロジェクト地域とグローバル拠点



# ■ わが国の宇宙産業(地球観測衛星)の評価(1/2)

- ・ 1990年代後半～2000年代前半にかけて、高分解能衛星が国際市場にて台頭
- ・ 2000年頃から、わが国において海外高分解能衛星を利用
- ・ わが国の地球観測衛星は、**研究目的に偏った利用に留まり、実利用拡大は停滞**
- ・ **顧客要求を満たすために海外高分解能衛星を利用してサービスを提供**



# ■ わが国の宇宙産業(地球観測衛星)の評価(2/2)

- ・ わが国の衛星画像市場は約100億円/年程度(世界の1/10市場)
- ・ このマーケットは、**海外(欧米)高分解能衛星が寡占化**
- ・ その殆どは、ICにて利用(L1b画像)され、CIVIL分野(加工画像等)での利用は停滞
- ・ 衛星システムは、ユーザニーズに答えられる機能・性能であるべき。これまでのわが国の地球観測衛星は**研究目的に偏っており、必ずしもユーザニーズを満たすとは言い難い機能・性能**
- ・ また、衛星画像を活用しての**アプリケーションの開発も不十分**であり、利用が進展しない主な理由の一つ



海外高分解能衛星L1b画像の例(上:光学、下:SAR)



水田における作付け分類の例(黄色枠:水稲/緑:大豆)



土地被服分類の例(黄色:草地/緑:森林)

# ■ 宇宙政策への期待(1/2)

## ■ 高分解能地球観測衛星のインフラ化

ASEAN防災ネットワークに資する日本のEOSインフラの整備

ユーザー満足度の向上

- ・GSD(地上分解能)の向上  
⇒より詳細で正確な情報の提供  
※1m以下の分解能が必要
- ・時間分解能の向上  
⇒日本の衛星によるコンステレーションの形成  
※最低1日1回以上の撮像機会を持つシステム(NRT: Near Real Time)
- ・解析・分析能力の向上  
⇒解析システムの自動化や処理能力の向上。人員の育成  
※情報提供の迅速化(NRT)
- ・データ提供システムの整備  
⇒プラットフォームによるワンストップサービス(Webサービス)の実現  
※情報アクセスの容易性の確保(ハードルを下げる)

利用裾野の拡大

- ・多様で高度なユーザーニーズを満たすためのアプリケーション開発

## ■ 宇宙政策への期待(2/2)

### ■ リモセン戦略の立案

- ・ わが国の**リモセン戦略に基づく将来計画が必要**(世代別計画)  
※研究開発、技術開発、実利用の展開

### ■ 高分解能地球観測衛星のインフラ化

- ・ 日本の地球観測衛星による**コンステレーションの実現(7衛星以上)**
- ・ この衛星システムは、**ユーザの声を反映したシステム**として開発

### ■ ユーザ要求に応じたアプリケーションの開発

- ・ ASEANとの**連携を踏まえたアプリケーションの開発**を推進(例 欧州のGMES)
- ・ ユーザが**衛星画像を利用し易くなる仕組み**の構築

### ■ 官民連携の推進(PPP)

- ・ 国が衛星システムを整備し、**民間が運用、画像配布及びサービスを提供する仕組み**の構築が必要
- ・ 官民連携を推進し、**欧州に劣らない競争力を具備**することが必要

### ■ リモセン法(仮称)やデータポリシーなどの制度設計

- ・ 国内外での**高分解能衛星画像の利用を円滑にするための制度設計**が必要  
※データポリシーの整備(わが国で一つ)